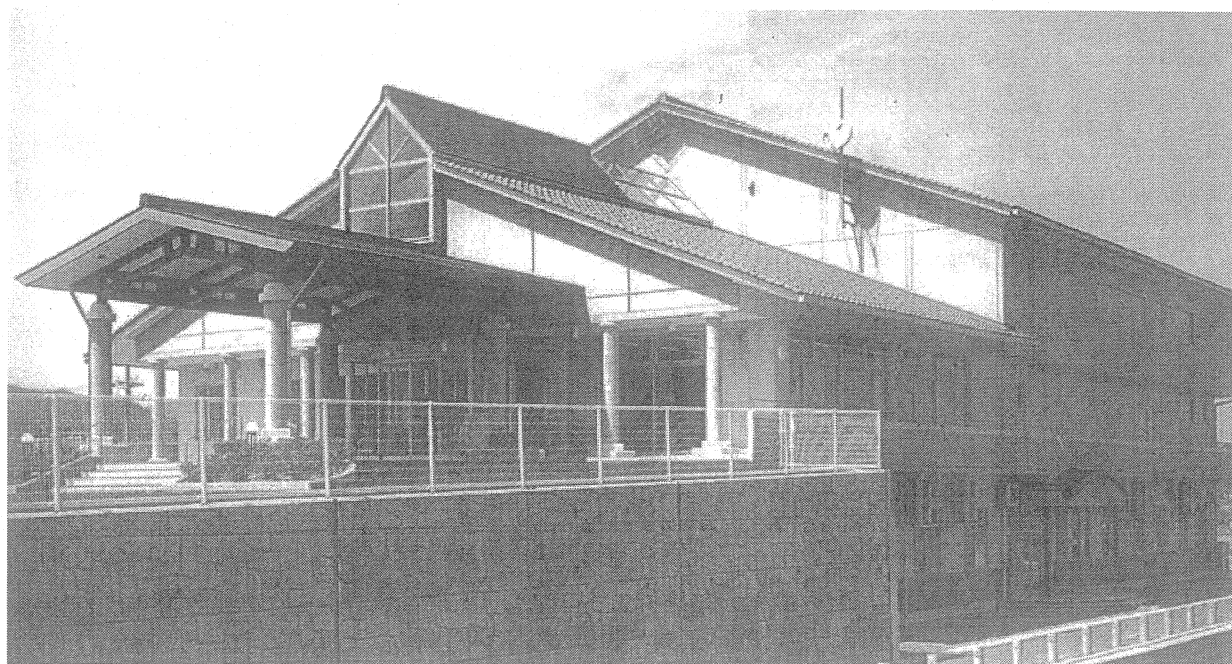


社会教育活動実践交流フォーラム  
令和4年度京都府社会教育研究大会  
(きょうと地域創生府民会議協賛事業)



令和4年11月17日(木)午後1時30分～同4時30分  
アグリセンター大宮

京都府社会教育委員連絡協議会

**社会教育活動実践交流フォーラム**  
**令和4年度京都府社会教育研究大会（きょうと地域創生府民会議協賛事業）**  
**開催要項**

- 1 趣 旨 府内の社会教育委員をはじめ、社会教育関係団体、NPO、社会教育に関心のある方が、日ごろの実践や研究の成果について交流を深めるとともに、地域社会をめぐる今日的課題について共通理解を深め、社会総がかりでの教育の実現を目指して研究協議を行う。
- 2 研究主題 「 変化する社会における社会教育の役割  
～持続可能な魅力ある地域をめざして～ 」
- 3 日 時 令和4年11月17日（木）午後1時30分～同4時30分
- 4 場 所 アグリセンター大宮  
〒629-2501 京丹後市口大野228番地の1
- 5 主 催 京都府社会教育委員連絡協議会
- 6 後 援 京都府教育委員会  
京都府市町村教育委員会連合会  
京丹後市教育委員会
- 7 参 加 者 京都府・市町村社会教育委員、社会教育関係団体、NPO及び社会教育に関心のある方

- 8 日 程  
13:00 13:30 13:50 15:10 15:25 16:25 16:30

受付	開会 行事	講 演	休憩	パネルディス カッション	閉会 行事
----	----------	-----	----	-----------------	----------

(1) 開会行事

- ◇ 挨拶 京都府社会教育委員連絡協議会会長
- ◇ 祝 辞 京都府教育委員会教育長  
京都府市町村教育委員会連合会会長
- ◇ 歓迎祝辞 京丹後市長

- (2) 講 演 演 題「持続可能な地域コミュニティづくりをめざす社会教育の挑戦  
～コロナ禍から見えてきた新しい学びの形～」  
講 師 高野山大学 文学部教育学科特任教授 今西幸蔵 様

(3) パネルディスカッション

- (4) 次期開催地挨拶 乙訓社会教育委員等連絡協議会会長

- (5) 閉会挨拶 京都府社会教育委員連絡協議会副会長

令和4年11月17日(木)

## 京都府社会教育研究大会 講義レジュメ

# 持続可能な地域コミュニティづくりをめざす社会教育の挑戦 ーコロナ禍から見えてきた新しい学びの形ー

高野山大学文学部教育学科  
主任兼特任教授 今西 幸蔵

## I COVID-19 パンデミックで何が起き、どう対応したのか。

1. コロナ禍が社会教育に与えた影響は何であったのか。
  - ・政府・社会が求めた三密への対応（密閉空間、密集場所、密接場面）
  - ・集合学習が困難になり、各種事業の中止や延期（プログラム内容の大幅変更）
2. 社会教育の関係者は、どのような創意工夫でもって対応したのか。
  - ・人と人の距離の確保、検温、マスク着用、手洗い等の手指衛生、消毒、換気（公衆衛生学習）の徹底
  - ・困難な状況に対応できる社会教育や学習方法の検討
3. 「ハイブリッド型\*」の教育・学習の採用
  - ・対面形式（リアル形式）とオンライン形式（バーチャル形式\*）の併用
  - ・結果として、フィジカル（現実）空間とサイバー（仮想）空間を高度に融合した将来社会への道筋が見えたのではないかと：Society5.0\*への対応
4. オンライン形式（デジタルを活用した形式）の教育・学習の実施
  - ・オンデマンド形式とデジタルリアル形式の双方でリモートの準備（ZOOM や webex 等の会議システムによる学習方法、プロジェクター等 PC 周辺機器整備、オンライン時のプログラムづくり）
  - ・SNS を利用した配信

## II パンデミック後の社会の変化と課題

1. 社会全体の課題（社会教育の課題でもある。）は何か。
  - ・コロナ禍を通して潜在していた社会課題の顕在化
  - ・「新しい日常」（ニューノーマル）とされる「with コロナ」「post コロナ」社会への対応
  - ・社会的格差の広がりに対する社会的包摂（インクルーシブな社会\*）の実現
  - ・ICT 環境の整備とともに、デジタル・ディバイド\*の解消
2. 事業規模・方法の変更
  - ・オールラウンド型事業からピンポイント&ニッチ型事業\*への転換
  - ・テレワークの普及（リモート社員、リモート採用活動）
  - ・既成の職場ではないワークスペースの活用（サードプレイス\*）
  - ・結果として「ふるさと回帰」や新しい社会への移住（人材の循環）
3. 新型コロナウイルス感染症や自然災害への対応から学んだこと
  - ・SDGs\*のゴールをめざし、「いのちを守ること」「誰一人取り残さない社会づくり」
  - ・ニューノーマルな社会とイノベーションな社会（安定と発展）への対応
  - ・デジタルトランスフォーメーション（デジタル変革）の必要

### Ⅲ 社会教育の再評価と新しい学びの形

1. SDGs のゴールをめざす社会教育で必要なこと
  - ・すべての人々が共生 (to live together) できる学習環境づくり (生命の安全と維持、人間同士のつながり、社会的格差の是正、ダイバーシティ\*の考え方の導入)
  - ・ウエル・ビーイング\*、QOL\*の向上をめざす学習活動
2. 人生百年時代の社会教育の課題
  - ・青少年 (若者) の活動はどうなるのか
  - ・壮年の学び直しの取り組みと育児支援
  - ・高齢者の人生百年時代への対応と健康寿命の担保
3. コロナ禍で再確認された社会教育のノウハウの活用
  - ・開放された社会教育施設での取り組み (野外での体操、青空公民館活動、「語り場」の開設)
  - ・図書館での「読み聞かせ」や自己学習の機会提供など
  - ・学習サポート体制の活用 (学習情報提供や学習相談、教育相談、カウンセリングなど)
4. コロナ禍から得られた新しい学びの形
  - ・人材循環型コミュニティづくりへの学習支援
  - ・コーディネート力向上による新しい対話型の社会教育の振興 (社会教育士\*の活動がポイント)
  - ・新しいコンテンツ\*づくり、PC 周辺機器等のデバイス\*の整備によるネットワークの形成

### Ⅳ 持続可能な地域コミュニティ形成に向けての挑戦

1. インクルーシブな社会の実現 (資料：第2期京都府教育振興プラン参照)
  - ・「誰一人として取り残さない社会づくり」はいのちを守る社会教育
  - ・他世代間交流の実現と「支えあい」
2. 変化する社会への挑戦
  - ・ブーカ社会の到来 ①Volatility：変動性、②Uncertainty：不確実性、③Complexity：複雑性、④Ambiguity：曖昧性
  - ・問題発見、問題解決、本質の直視が重要
3. 地方のあり方改革の時代
  - ・「地方だから」「小さいまちだから」という意識からの脱却
  - ・大きな学習目標は3つ (健康、次世代の人材育成、育児や介護)
  - ・地域課題の認識と共有化が重要 (共有化された課題が人のつながりの結節点となる。)
  - ・どのような主体と連携・協働できるのかの検討
  - ・企業は SDGs \*や ESG 投資\*に目を向けている。(地域課題の明確化は企業参加を生み、経済が循環する)
4. コロナ禍の功罪としてのテレワーク普及とIT活用の推進
  - ・自由時間が生まれ、若年労働者・壮年労働者の「社会参加」「学習活動参加」が可能となる。
  - ・ユニバーサル・アクセス\*の実現 (デジタル・ディバイドの問題に対処)
5. 社会教育の視点からの産業振興の取組
  - ・地域資源 (人も物も) の開発と創造を学習 (事例：徳島県の企業いんどり)
  - ・ふるさと納税やふるさと創生が契機となる (事例：茨木市の新酒「發」づくりなど)
  - ・ピンポイント&ニッチ型事業への転換 (スモール・ビジネス)
6. 地域人材の育成
  - ・循環型人材育成\*：都会からのUターン・Iターンの促進 (事例：山口県のひとづくり財団)
  - ・学校によるサービス・ラーニングの取り組みとの連携
  - ・地域でのOJTの活用 (経験者とともに実務を経験する)

⇒ 【参考】第2分科会 京丹後市久美浜町佐濃地区の実践事例

## V 地域活性化をめざす「ふるさとプラットフォーム」の形成段階

### 〈第1段階〉地域の再認識と地域学習の深化の段階

- ・さまざまな領域から地域について学習する。(事例：泉北ニュータウン学会、地元・地域学会活動)
- ・地域の若者を中心に、「京都版カタリバ\*」「京都版ユタラボ\*」で集い、語り、学ぶ。
- ・公民館等の社会教育関係者が中心となって「まちづくりワークショップ」を行う。
- ・住民活動をさまざまなツールで情報提供する。
- ・全国さまざまな他の地域団体や人々の活動を学び、可能な限り連携・交流する。(ネット活用)
- ・社会教育等の学級・講座、市民大学やまちづくり大学\*で学びあう。

### 〈第2段階〉地域課題の明確化と活動への参画の段階

- ・保育所(園)、こども園や幼稚園の保護者間で子育て談義を行い、課題を明確化する。
- ・ふるさとを愛する次世代の子どもたちを育成する。
- ・自治会による地域づくりの推進を図る。(事例：豊岡市の地域コミュニティビジョン等)
- ・地域を活性化する産業の育成に取り組み、まちづくりを振興させる。

### 〈第3段階〉課題の共有化と解決に向けたプラットフォームづくり

- ・社会教育関係団体や地域団体等が集まり、まちづくり協議会(自治協議会\*)を組織化する。  
⇒ 「ふるさとまちづくりプラットフォーム」の構築
- ・プラットフォームには、地域住民や地域団体、NPO、地方企業、地方経済団体、自治体、大学・学校が総がかりで参加・参画
- ・公民館等の社会教育施設が住民活動支援センターとしての役割を担う。(eプラットフォームも活用)
- ・地域学校協働本部活動と連携し、教育の進め方を話し合い、課題の一層の共有化を図る。

### 【資料】「第2期京都府教育振興プラン」第1章 京都府の教育の基本理念

#### 2 教育に関わるすべての者が大切にしたい想い

「私は、かけがえのない存在として、愛され、見守られている」

「私は、共に支え合い助け合う仲間として、信頼されている」

「私は、この社会の一員として、責任ある行動を期待されている」

誰もが、かけがえのない一人の人間として、

周囲の人々に支えられ、生かされています。

その想いに応えて「がんばろう」という気持ちは生まれません。

温かくて厳しい、周囲からの愛情や信頼、期待などに

【包み込まれているという感覚】

が土台となって、失敗したとしても再び挑戦できる

【自己肯定感】

がはぐくまれ、主体的に考え、多様な人とのつながり、

新たな価値を生み出すための意欲が引き出されるものと考えます。

特に、困難な状況におかれた子どもは、

こうした感覚を持つことが難しくなっています。

すべての子どもを愛情と信頼と期待とで包み込んでいくこと、

「自己肯定感」をはぐくむことができるように、

学校で、家庭で、地域で、教育に関わるすべての京都の人々が、  
等しくこの想いを胸に、子どもたちに接していくことが求められます。

高い専門性をもって日々子どもたちに寄り添う学校の教職員はもちろん、  
すべての教育の出発点である家庭の保護者も、  
コミュニティの一員として子どもたちを迎え入れる地域も、  
すべての大人がすべての子どもを愛情と信頼と期待とで見守り、  
小さな変化にも気づきながら、支え、伸ばしていくことが、  
子どもたちが自身の未来の扉を開くための力となるのです。

(2021年3月 京都府教委 策定)

#### 【レジュメ中の語句の意味】

##### ○インクルーシブな社会

平成6(1994)年にスペインのサラマンカでの「特別ニーズ教育世界会議」で提唱された概念。人間としての尊厳・意識の向上と、人権、基本的自由及び多様性の尊重を目的とした社会形成の考え方。

##### ○ウエル・ビーイング

人間にとって本質的に価値のある状態、善い状態、自己利益に適っているようなものを指す。

##### ○カタリバ

2001年に今村久美氏によって設立されたNPO法人。当初は、高校生のためのキャリア学習プログラムとして「カタリ場」が開設され、東日本大震災以降は子どもたちの遊び場、居場所になっている。「ナナメの関係」「本音の対話」を軸に、思春期世代の「学びの意欲」を引き出し、大学生らの参画機会の創出に力を入れている。

##### ○コンテンツ

メディア等で提供される動画・音声・テキストなどの情報内容を指す。

##### ○サードプレイス

アメリカの社会学者オルデンバーグが提唱した概念で、「職場・学校」や「自宅」とは異なった、気持ちがリラックスするような第三の居場所を意味する。

##### ○自治協議会

先駆的には、福岡市の「コミュニティの自律経営に向けて」(2005年4月)で示された地域組織モデル。その後、北九州市やさいたま市が同様のモデルを取り上げている。住民が自治力を高め、自身が地域経営を担っていくことを目指した組織であり、自治会を中心に、町内会、交通安全団体、体育団体、女性団体、青少年団体、環境団体、献血団体、衛生関係団体、自主防災組織、高齢者団体、防犯協会、母子福祉団体等が一堂に会し、社会福祉協議会や人権尊重推進協議会等と連携・協力して活動する。

##### ○社会教育士

地域活動の課題などに向き合い、地域を活性化させる活動など、社会教育主事の職務に近い活動を行う人に文科省が与える称号。社会教育主事が公務員任用であるのに対して、社会教育士はその必要がないが、講習を受講しなければならない。

##### ○循環型人材育成

UターンやIターンなども含め、都市と地方を循環することによって社会貢献することができる人材を育てること。

##### ○ダイバーシティー

性別、人種、年齢、性格、学歴、価値観、個性などの違いによって偏見や差別意識を持つことのない状態をいう。

##### ○デジタル・ディバイド

通常「情報格差」と翻訳される。インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差の問題。

##### ○デバイス

PCのハード・ディスク、プリンターやマウスなどの周辺機器を指す。元来の意味は、コンピュータ・システムの特定の機能を意味する。

##### ○ハイブリッド型

異なった要素が混合した組み合わせをいう。ここでは対面形式とオンライン形式の両方を混成した学びの型式を指す。

○バーチャル形式

「仮想」とか、「インターネット上」という意味の形式

○ピンポイント&ニッチ型事業

1点集中とか、狭い範囲に限定した事業展開のこと

○まちづくり大学

主に自治体が提供するサービスなどについて学習し、その成果を社会貢献活動に生かすことを目的とした社会教育事業

○ユタラボ

一般社団法人の名称。多様な価値観があふれる「まちづくり」を目指すとともに、豊かな暮らしを実現するための実験所を意味する。山口、東京や益田（島根県）などで活動している。居場所を拠点としたカタリバと近い教育活動を行っている。

○ユニバーサル・アクセス

誰でもが自由に情報にアクセスできること。本講義では高齢者などのデジタル・ディバイドにある人がアクセスできる状態を目指すという意味で使用している。

○ESG投資

SDGsとは異なった立場で、環境、社会、ガバナンスに関わって国際社会の発展に寄与する活動で、投資や資産運用することでSDGsの達成につなげようとするような企業活動をいう。

○QOL

どれだけ人間らしい生活を送っているのかという「生活の質」を示す用語

○SDGs

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で示された国際目標。2030年を目標として、国際社会が有する重要課題の解決のための目標17とターゲット（標的）169を示している。

○Society 5.0

サイバー空間とフィジカル空間の高度な融合により、経済発展と社会問題の解決を図ろうとする社会のあり方を意味する。

【参考文献】

- ・横井理夫、植田浩士、明石要一、三浦奈々美、今村久美、近藤真司の各氏による座談会「この1年間の社会教育・生涯学習から2021年度を展望する」『社会教育』2021年3月号、日本青年館、2021年、pp. 7-27
- ・阿部佳世子、林大介、宮田安彦、河野真理子、近藤真司の各氏による座談会「テレワークをキーワードにNEW NORM時代の学びを考える」『社会教育』2021年8月号、日本青年館、2021年、pp. 7-37
- ・今西幸蔵『協働型社会と地域生涯学習支援』法律文化社、2018年、pp. 184-186
- ・今西幸蔵「NPOを核に、地域社会・大学・行政が連携・協力して若者の活躍の場づくり」『社会教育』、日本青年館、2022年10月号、pp. 28-34

## 《 パネルディスカッション 》

テーマ 「変化する社会における社会教育の役割

～持続可能な魅力ある地域をめざして～」

コーディネーター 京都府社会教育委員連絡協議会会長 森川 知史

パネリスト 京都府内各ブロック社会教育委員

乙訓ブロック 森 一真

山城ブロック 重松 希代子

南丹ブロック 中西 和之

中丹ブロック 上原 健

丹後ブロック 中山 一